

心友会だより

第378号

昭和44年6月1日創刊
平成17年12月8日発行
発行所及責任者
川崎市多摩区東生田4-13-17
電話番号 044-976-0708
郵便番号 214-0031
宗教法人 出雲心友教会
編集兼 宗 教 法 人 佐 藤 武 彦
毎月8日1回発行
1部150円(送料共)
年間購読料1,800円

お正月

私たちの先祖は、太陽の運行のリズムや月の運行のリズム、自然の変化のリズム



秋季例大祭より

して、その節目に年中行事として様々な行事、御祭を行なってきました。

私たち日本人の文化において節目節目には必ずといって良い程「御祭」があります。

正月は、年中行事が集中して行われる時です。

正月行事の基本は「年神」と呼ばれる神格を家々で迎え祀る事にあります。

この神の性格は複雑ですが、農耕を行なう人びとの間では、農耕神としての性格をもっている事は間違いありません。

このことをよく物語っているのが、能登半島にみられる「アエノコト」行事です。十一月(現在では十二月)五日に、家の当主が稲を刈り取ったあとの田に出かけて、「田の神様」を家に迎え入れ、たくさんのごちそうでもてなし、二月五日の田の神送りの日まで、

家に滞在してもらうというのが「アエノコト」という行事ですが、この滞在期間が正月とも言えます。

そして、この田の神は、年神と言い換えることもできます。つまり十二月五日

に来訪する田の神が、十二月の大晦日にやって来るのが「年神」というのです。

そして、この「年神」は、ほぼ半月間家々に滞在し、「小正月」と呼ばれる一月十五日の朝に、松飾りを焼くトンドの煙に乗って神の国へと帰って行くと言われています。

また、村と都市の年中行事にもそれぞれに特色があります。

まず村の年中行事をみてみましょう。

日本は長い間、稲作を中心とした農業社会でした。その為、農村の年中行事も自然のリズムに対応した稲作農耕のプロセスをふまえて作られたものが多い様です。

て飾ったりする様々な行事も行なわれました。

「成木責め」という果樹をせめて、秋の豊作を約束させる行事も、同様の正月の予祝儀礼です。

次に都市の年中行事をみてみましょう。

正月元旦の習俗は農村と大差はない様です。

門松を立てたり注連飾りをしたり、餅を供えたりして年神を迎え、雑煮を食べ

て新年を祝います。

六日の夜には「六日年越し」といって、門松を取り

はずす、「松納め」が現在では行なわれていますが、昔は農村と同じく十四日に

行なわれていたそうです。

翌七日には「七草粥」を作って食べ、十五日には「十五正月」といってあずき粥

を作って祝う習慣が一部では残っています。

元旦とは、もともと一年の始まりとして正月の満月の夜、年神を迎えて旧年の

豊作と平穏を感謝し、併せて今年の豊穰と平和を祈念

する日でした。これは旧暦の正月十五日でしたが、明治六年からは新暦一月一日

を祝う様になって現在に至っています。元の一月十五日も「小正月」として、今も祝い事を催している地方は多く、各地で地方色豊かな行事が行なわれています。

「明けましてお目出とうございませ」というのは人間

に対していう挨拶だけではなく、新しい年に迎えられる

年神さまを讃える言葉でもあったのです。そしてその

年に年神さまが宿る方向は縁起のよい方向だとされて

いて、その方角を「恵方」といいます。

初詣もそもそも「恵方参り」に由来し、その年の恵

方に当たる神仏に参詣して来たる年の豊穰と家内安全

を祈願するものでした。

現在では恵方の感覚はなくなり、単に有名神社に参詣するのが恒例になっているように

す。

しかし、皆様は初詣する大神様が向ヶ丘の地と南箱

根の地にいらっしやるのですから、すくなくとも三箇

日の御屏が開いているうちに万障繰り合わせておまいり下さいませ。